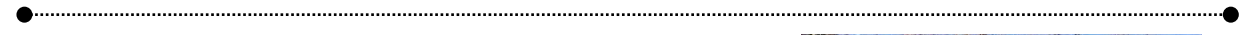


### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | 信州上田「やまほいくの里山」プロジェクト<br>—上田女子短期大学の裏山で遊ぼう— |
| 事業主体<br>(連絡先) | 学校法人北野学園 上田女子短期大学<br>上田市下之郷乙 620          |
| 事業区分          | (3) 教育、文化の振興に関する事業                        |
| 事業タイプ         | ソフト                                       |
| 総事業費          | 971,397 円 (うち支援金: 765,000 円)              |



#### 事業内容

##### I. 講義・ワークショップ・裏山における体験活動を実施 (会場: 上田女子短期大学)

- ①9/30 「里山遊びにおけるリスクマネジメント」 25名
- ②10/21 「色いろ探して秋発見! 自然体験ゲーム」 46名
- ③12/2 「自然を深く知るための作法~インタープリテーション入門~」 25名
- ④2/11 「自然再考~子どもの身体に息づくあそびの魂が躍り出す瞬間  
~講演&実践報告会」 33名



【裏山で研修会!】

##### II. 長野県内の自然保育実践施設見学を実施

- ①11/16 「山のあそび舎 はらぺこ」 (伊那市) 9名
- ②11/27 「響育の山里 くじら雲」 (安曇野市) 11名

#### 【目標・ねらい】

- ・自然保育に対する多義的な意味の正しい理解の場を創出。
- ・多様な実践の可能性を地域全体へ提示し、保育の質の更なる向上を目指し、次世代の子どもたちの育成へとつなげる。
- I①ヒヤリハット事例の紹介、遊びの環境づくりを考える。
- I②地域の自然環境の保全と創造。多様な年齢層との学び合いの場を提供する。
- I③自然と人をつなぐ技法を学ぶ。
- I④保育実践と結びつける講演を通し、地域で行われる保育の質の向上を目指す。
- II 保育の多様性や地域の特性を生かした保育のあり方を知る。

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- I①現場でのリアルな悩みも浮き彫りになり、有意義な議論の場になった。
- I②参加者は五感を使いながら、自然物の色や形、感触の面白さや、不思議さを発見し、感激していた。他者と協働することの面白さ、学び合いの深さを実感し、子どもたちからも得ることが多かった。
- I③地域資源を生かすコツを、対話の中から見出すことができた。
- I④自然保育の実践を学ぶことができ、「自然保育を交えた保育」の質の向上につながることを期待される。
- II 自然保育の中の子どもの様子について実体験を通して学ぶことができた。学生の自然保育に対する興味の底上げにつながった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

地域の自然と人の営みにも視野を広げ、民話や伝承、風穴、ため池など、地域の文化・生活史を通して「自然」を考える機会を作る。また、対象を保育者、学生、子ども(主として幼児)、子育て世代に限らず、小中学生などの世代にも広げていく。課題として挙げられた「参加者からのフィードバック」や「学生のより主体的な参加」のありかたについても模索していく。

#### ※自己評価【B】

アンケート等に見られる参加者の反応は概ね良好であり、また、学生の修学にも良い影響があったことから、予想していた効果はほぼ得られたと言える。

子どもの多数参加が望まれる回における幼児~小学生程度の動員数を増やすことや、施設視察の成果の継続性については工夫、検討の余地がある。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 事業名           | 上田街中演劇祭 2018—演劇による中心市街地振興と劇場文化担い手育成事業 |
| 事業主体<br>(連絡先) | 一般社団法人シアター&アーツうへだ<br>上田市中心2丁目11-20    |
| 事業区分          | 教育、文化・スポーツの振興に関する事業                   |
| 事業タイプ         | ソフト                                   |
| 総事業費          | 6,311,845円 (うち支援金: 4,937,000円)        |

#### 事業内容

上田市の中心市街地には芸術文化に触れる機会が少なく、演劇については関わる人口も少ない。横のつながりも薄く、担い手も育てていない現状を変えようと、中心市街地の商店街に面した会場や、空き店舗など、複数の会場で9月15日～11月11日まで「上田街中演劇祭2018」を開催した。

#### 【優れた舞台芸術の紹介 5団体】

- ① 9月15日(土)～16日(日) @26bldg.  
三条会『つつじの乙女』
- ② 9月29日(土)～30日(日) @スタジオセブンツードラコム『ソコナイ図』
- ③ 10月13日(土)～14日(日) @海野町商店街路上、ノキロソーコ  
お芝居デリバリーまりまり『昔話メドレー』
- ④ 10月14日(日) @犀の角  
アフタフ・バーバン『ぐうちよっぱ劇場』
- ⑤ 10月27日(土)～28日(日) @犀の角  
TCアルプ『土砂降りボードビル』

#### 【街で創る！アーティストインレジデンス in 海野町】

- ① 10月18日(木)～21日(日) @犀の角  
72時間トーク『復活！信州の学海「いま、創造するとは？」』
- ② 11月9日(金)～11日(日) @犀の角  
『熱海殺人事件～長野県バージョン』
- ③ 10月7日(日)～8日(月) @ノキロソーコ  
『鹿踊りのはじまり』

#### 【海野町から世界とつながろう！—国際交流事業】

日本とフィリピンの青少年同士の演劇を通じた交流事業  
10月12日(金)、14日(日) @犀の角  
演劇公演『PAYO (田んぼ)』  
9月6日(木)、10月13日(土) @稲倉の棚田  
ワークショップ

#### 【地域劇団応援 2団体】

- ① 9月15日(土)～16日(日) @犀の角  
犀の角演劇クラブ(上田市)『熱海器物破損事件』
- ② 9月29日(土)～30日(日) @犀の角  
カフェシアター(長野市)『伯爵令嬢小鷹狩掬子の七つの大罪』

#### ※活動写真



『つつじの乙女』公演写真

#### 【目標・ねらい】

- ① 演劇文化及び、中心市街地振興
- ② 劇場文化担い手育成

#### ※自己評価【 A 】

・観客が昨年と比べて 37%増加した。

・中心商店街における演劇の公演数が 19公演から 21公演と増え、中心商店街で文化芸術に触れる機会が増加した。

・劇場を訪れた観客が街中を回遊することで中心商店街に賑わいをもたらしただけでなく、アフタートークなどで観客とアーティストが対話をし、地域間交流や、観客同志の会話により世代間交流が促進された。

## 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 上田地域で鑑賞する機会の少ない優れた小劇場演劇作品を上演し、地域住民に芸術作品の鑑賞機会を提供することができた。  
演劇祭の観客数の増加 目標年度 H30 対 H29 比 37%増  
(H30 : 1195 ← H29 : 870 名)
- ② 空き店舗や空き店舗をリノベーションした場所を演劇の公演会場として有効活用しつつ、中心商店街への集客を促すとともに、空き店舗の多い地域課題に目を向けてもらうことができた。
- ③ 上田地区で地道に活動している地域劇団の公演活動を広報面、会場費などの面で支援し、招聘劇団との交流の機会を作ることができ、地域間交流が促進された。

## 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も上田市の海野町商店街にある民間文化施設を拠点に、年間を通して演劇公演を行っていくことで、観客の創出とともに制作者、技術者などの人材の育成も行っていく。

来年度の演劇祭では、新たに別の空き店舗等を活用するなど中心商店街の各団体、店主、家主等と連携しながら、より多くの会場で、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を提供する。より多くの市民に観ていただくため、特に広報宣伝面を強化していく。観客、アーティスト、運営スタッフなど、すべての演劇祭に関わる人間が、多種多様で、お互いの文化的背景を認め合いながら、世代間、地域間、ジャンル間の人的交流が促進されるようにしたい。特にボランティアスタッフの組織化や、初心者向けのワークショップなど観客人口を増やす取り組み、観客同志が出会える交流会の開催などを積極的に行う。新たなたなこれからの時代を生きるための価値が創造され、上田からその新たに発見した価値を世界へ発信していくような演劇祭にしていく。

また、商店街との連携を具体策としてどのように図っていくかが課題である。演劇祭終了後におこなったアンケートでは商店街では演劇祭は概ね好意的に受け止めていただいている中で、どのような地域連携が可能なのか。半券サービスや、演劇祭にちなんだ商品の開発、店舗でのイベントなどが考えられるが、地域振興と芸術振興がバランスよく両輪で発展していくような形を今後模索していきたい。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 事業名           | 丸子太鼓保存会 創立50周年記念地域振興事業       |
| 事業主体<br>(連絡先) | 丸子太鼓保存会<br>上田市鹿教湯温泉          |
| 事業区分          | ③ 教育、文化の振興に関する事業             |
| 事業タイプ         | ソフト                          |
| 総事業費          | 1,209,450円 (うち支援金: 954,000円) |

#### 事業内容

当会は、地域の伝統芸能の保存・継承を目的とし「地域への文化発信」「太鼓を通じた交流の創出」等、様々な場面・色々な人々に影響を与え魅了してきた。この太鼓文化の継承及び伝統芸能を通じた地域の更なる発展の為に、50周年という節目の年を1つの契機として、可能性を見出すため新しい試みとして多くの人が太鼓文化に注目してもらえるように下記の事業を行った。

- ① 創立50周年記念コンサートの開催
- ② 和太鼓合宿受け入れ推進
- ③ 地元小学生への太鼓指導及び和太鼓体験会練習公開
- ④ プロ演奏家による和太鼓ワークショップ開催
- ⑤ プロ演奏家によるコンサートの開催



【創立50周年記念  
コンサート】

#### 【目標・ねらい】

- ① 地域資源である和太鼓の魅力  
を再認識・再発信
- ② 和太鼓合宿誘致拡大
- ③ 和太鼓による地域活性化の  
新しい可能性の模索
- ④ 伝統芸能・文化の継承、保存

#### 事業効果

地域の伝統芸能である和太鼓を軸とした交流・誘客促進により、地域活性化の礎が構築できた。

- ① 記念コンサート：参加者286名を集客し地域の伝統芸能である和太鼓をPR
- ② 合宿受入：前年延べ800人に対し、前年対比108%増の862名を達成。交流・宿泊人口の増加を担う。
- ③ 太鼓指導：地域住民・来訪者（観光客含）延べ75名に指導・見学を行った。
- ④ プロ演奏家によるワークショップ：プロによる指導により技術向上と体験による興味喚起を図った。参加者30名
- ⑤ プロ演奏家によるコンサート：和太鼓と洋楽器を融合した他に類を見ない演奏は宿泊者、地元住民に活力を与え、観客を大いに魅了した。参加者130名  
<http://www.wadaiko-kojyou.sakura.ne.jp/>

※自己評価【 A 】

#### 【理由】

設定指数の目標達成、足を運んで頂いた皆様が当事業を通じて今一度この地に再訪して頂くきっかけの一つとなった為。

#### 今後の取り組み

先代から50年受け継いだ伝統芸能を次世代の担い手に継承していく事。和太鼓合宿誘致の里、信州鹿教湯の名を全国に広めていく事。温泉郷への来訪者数の底上げ、まずは和太鼓関連の宿泊者数述べ1000名を目指す。ゆくゆくは和太鼓を通じて知り得た同志の拠り所の地を目指したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

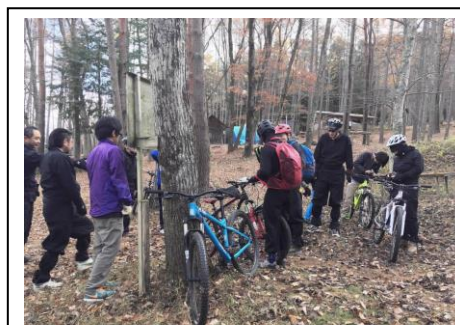


### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 事業名           | 忍者を核とした健康寿命延伸プログラム推進事業      |
| 事業主体<br>(連絡先) | 鹿教湯温泉旅館協同組合<br>0268-44-2331 |
| 事業区分          | (6)ア 特色ある観光地づくり             |
| 事業タイプ         | ソフト                         |
| 総事業費          | 705,090円 (うち支援金: 486,000円)  |

#### 事業内容

忍者と健康を掛け合わせて上田市鹿教湯地区を拠点に地域資源を広域的に巡り、運動×食事×温泉を楽しめる体験プログラムの開発をめざし、現状分析(地域資源分析およびモチベーション分析)を実施し、具体事業として推進していくための仮説づくりを実施。仮説を基に、具体事業化に向けた検討材料を作成した。また、体験プログラム「忍者ライド」の開発をベースに忍者やアクティビティの重要性や改善点を探るモニターワークショップを実施し、広域的な周遊プランの検討への基礎づくりを行なった。今後は、忍者ライドもひとつの受入コンテンツとして販売できるよう進めながら、メンタルヘルス×忍者というテーマで各関係者と協議し、具体化していきたい。



【モニターワークショップの様子】

#### 事業効果

プログラム開発と受け入れ態勢の構築  
→モニターワークショップには、行政関係者・旅行関係者が参加し、実際の忍者ライドの体験および今後の広域周遊における意見交換を実施し、今後の活動についての方針・課題を定めた。今回の事業で、地域資源の洗い出しを行い、ストーリー案プログラム素案を作成した。  
地元鹿教湯では、新たなアクティビティとして「忍者ライド」を開発。具体的な案(ターゲット・忍者をイメージした特色のある食の提供等)、今後の課題(ストーリー世界観のつくりこみ・インバウンド向けへの対応、宿側での食事やサービスの対応等)を見いだせた。今回の事業で戸隠観光協会や上田市、真田忍者十遊士の会等との連携を図れたことで、さらに今後具体的な周遊プランの策定をすすめていく。

#### 【目標・ねらい】

- ① 観光客の旅需要の変化に則したプログラム開発による、観光客の増加
- ② 広域的な周遊観光の拠点化を目指して、他のエリアと差別化を図りながら地域固有の価値を創造する

#### ※自己評価【B】

##### 【理由】

モニターワークショップの実施において、行政も含めた地域関係者が集い、実際に体験してもらおうと共にプログラム開発に向けた具体的な意見交換が行えたため。

#### 今後の取り組み

2018年度でのリサーチ分析から導いたプログラム方針と、モニターワークショップの結果をもとに、忍者ライドの商品化および広域観光の実現に向けた検討を引き続き推進していく。

広域周遊プログラムは上田エリア・戸隠と連携したモニターツアーを実施し、シニア層だけでなく、都市圏の健康意識の高い若年層や、日本文化を学びたいインバウンド層が、楽しみながら健康への気付きを与えるプログラムの実現をめざす。次年度以降の本格運用に向け、地域住民協働での体制づくりを構築しながら、妥当価格帯やプロモーション戦略立案に向けた受入態勢構築の準備・検討を並行して進めていく。

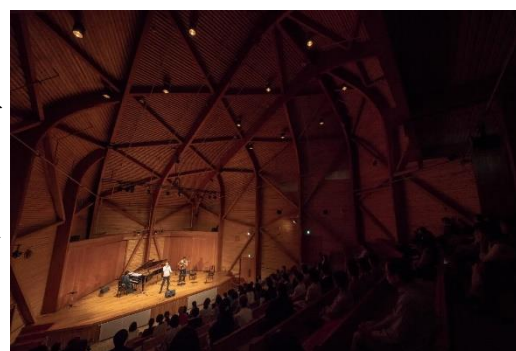
※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | こだまジャズ開催事業                                  |
| 事業主体<br>(連絡先) | こだまジャズ実行委員会<br>(上田市常田 2-27-17 0268-39-6835) |
| 事業区分          | 教育文化の振興                                     |
| 事業タイプ         | ソフト   |
| 総事業費          | 793,414円 (うち支援金: 402,000円)                  |

### 事業内容

平成30年6月23日土曜日14時より、信州国際音楽村屋内ステージ「こだま」にて、トリプルスタンダードとCinemusiqueの二バンドによるジャズコンサートを中心に据え、上田市近隣で生産される地元食材を利用した軽食の販売などを含めたジャズフェスを開催。地域の飲食店、商店や酒蔵、地域ボランティアの方々とは協働してジャズフェスを盛り上げ地域の振興をはかるとともに、地元以外からの集客や地域産品の販売への誘導、別所温泉などの観光地域への誘導を図るために観光案内を含めたパンフレットを作成し、会場にて配布。



【ステージと会場風景】

### 【目標・ねらい】

- ① 地域の食材を利用した飲食物の提供と販売
- ② 県内外からの集客と地域振興
- ③ 地域の方々やとの協働

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・集客目標127名(大人120名・学生2名・子供5名)に対し、実際の集客数107名(大人105名・子供2名)、目標達成率84%程度。

・上田地域のパン屋さんのパンや焼き菓子、珈琲ショップの珈琲を提供。太郎ポークのソーセージやホットドッグを軽食として提供。好評を得、このフェス以後太郎ポークやパン屋さん、珈琲ショップには問い合わせがあり、県内外に販売する機会が増えたとのこと。

・また別所温泉では当日配布したパンフレットをもってショップを訪問した方や宿泊に訪れた方がいたとの連絡をいただいた。

### ※自己評価【C】

#### 【理由】

集客目標127名に対し107名の集客実績。雨天で商店や酒蔵の参加を見送ってしまったが、地域産品の飲食物を提供できたことや、集客網や地域の商店のさらなる協力体制が必要と感じた点など今後への課題が明確にすることができた。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年度に向けて、さらに参加バンドを増やしていく。地域住民の参加をより促すために信州国際音楽村で活動する児童合唱団にも協力を要請し、休憩時間やコンサート前の時間を利用した演奏協力をもとめていく。地元の商店の協力体制を築くため商店組合などに協力を要請していく。集客力強化のために、上田城址公園で長きに渡ってジャズコンサートを開催してきた上田ジョイントの主催・渡辺女史に参画の内諾をいただいた。多くの市民の参画を図ることで上田地域の祭りとするばかりでなく、素敵な祭りに自信をもって県内外からの集客を行い地元の振興に寄与していく。

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | 健康東信地域発みんなで歩いて湯にバーサル推進事業                            |
| 事業主体<br>(連絡先) | 一般社団法人日本バディケア協会<br>電話 0268-75-7692 FAX 0268-75-7694 |
| 事業区分          | 6) 産業振興、雇用拡大に関する事業<br>ア特色ある観光づくり                    |
| 事業タイプ         | ソフト・ハード   |
| 総事業費          | 1,716,440 円 (うち支援金: 1,307,000 円)                    |

#### 事業内容

可搬式階段昇降”らく段“の操作講習会を4回(5月、9月、10月、1月)開催した。鹿教湯温泉を中心に宿泊施設や観光協会関連の方々に参加し、鹿教湯温泉交流センターや文殊堂の階段を活用した実習により操作方法を習得した。

ヒッポキャンプの操作講習を実施し、バディケアに興味のある上小地域の方々に参加、5名が新たにライセンスを取得した。

バディケアへの理解を深めていただくため、チラシ、ポスターを作製するとともに、研修会においてヒッポキャンプの活用事例紹介等を実施し情報を発信した。



#### 【目標・ねらい】

- ① 講習会等開催による人材育成
- ② 福祉器具整備による普及促進
- ③ 情報発信による認知度向上

#### 事業効果

- ① らく段(可搬式階段昇降)講習会  
4回開催、参加者延べ25名  
安全に操作するための動作確認、室内と室外の動作確認などを習得。  
虚弱な方も体力や障害に応じて、福祉器具を活用した健康生活の提案を行い・普及への理解が深まった。
- ② ヒッポキャンプ操作 UNITI ライセンス講習会  
インストラクターのライセンス取得者 5人

#### ※自己評価【 B 】

【理由】  
講習会開催、福祉器具整備等により体制が整備できた。また、チラシ等による周知や研修会での活動事例紹介等により福祉器具を活用した屋外活動への理解浸透が図られた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

旅行中の体調管理は災害時の対応にも通じることを改めて気づき、今後の協会の取り組みの中に、災害福祉、身近な方への0.5次救急対応を充実することで、医療災害に最も必要とされていることと考える。そして、中高生から障がい者、緊急時、健康管理を学ぶことで責任ある人間へ成長する一助となると考える。さらに今までの資格者の活動を大切にフォローし着実に普及を実施する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 事業名           | 田中駅開業 130 周年活用事業               |
| 事業主体<br>(連絡先) | 一般社団法人信州とうみ観光協会 (0268-62-7701) |
| 事業区分          | (6) 産業振興、雇用拡大 (ア) 特色ある観光地づくり)  |
| 事業タイプ         | ソフト                            |
| 総事業費          | 413,420 円 (うち支援金: 330,000 円)   |

#### 事業内容

- ・信越線田中駅 130 年と田中商店街の歩みのパネル展示により当時の様子の写真、周辺環境の変遷を紹介し駅としての機能を再認識していただき観光の入口の拠点として駅と周辺の活性化を目指しました。
- ・全国の田中さん田中駅大集合として全国の鉄道マニア、全国の田中さんなどに幅広く呼びかけ、話題性の提供と興味喚起を促すため、130周年記念限定グッズを制作し、集客を図りました。
- ・田中駅舎とホームに「田中駅 130 周年」全国の田中さんや台湾を始めとした中華圏向けの歓迎横断幕や撮影ポイントを整備して SNS、新聞報道などで広く全国や海外に発信する場を提供しました。
- ・田中駅を起点とした田中さんにこだわったツアー「田中駅と田中宿(田中商店街)・海野宿を巡る“まち歩き”」を募集・開催しました。



【田中さんツアー参加者】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・観光協会として田中駅からの観光を中心とした地域との連携による交流人口の拡大を目指しました。
- ・展示資料の収集においては住民や関係者に 130 年の認知理解の場を提供しながら田中駅の機能や利便性存在感の再認識の醸成を作りました。
- ・来訪者を歓迎するおもてなしの場の機会創出としてイベント開催やツアー企画の商品化で観光客利用者数をアップすることで街のにぎわいにつなげながら新たな需要を創り出す機会としました。
- ・苗字にもある田中駅を全国の田中さん始めとする人たちに告知し、話題性を提供するとともに利用者数の増加が図られました。(10月～12月乗降数が昨年同時期比で3,194人増(+6%)につなげた。)

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

交通の玄関田中駅から観光を中心とした地域との連携による交流人口の拡大を今後も目指し、田中駅の機能や利便性を地域に伝えて、来訪者を歓迎するおもてなしのイベント開催やツアー企画の商品化で利用者数の増加につなげていきたい。苗字と同名駅によるイベント展開は、新たな層が来訪するきっかけづくりとなることから、今後も話題性を提供し認知促進にさらにつなげていきます。

#### 【目標・ねらい】

- ① 話題性の獲得
- ② 田中駅、東御市の認知向上
- ③ 駅利用者及び来訪者増
- ④ 地域への再認識の場づくり

※自己評価【 A 】

【理由】  
 話題性の獲得、認知向上、利用者増へとつなげたが、ツアーに関して鉄道マニアと観光者像のギャップを埋めることができなかった点を今後考慮したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた  
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



### 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |   |
|---------------|---|
| 事業名           | 地域ぐるみで家族への想いを共に感じ考える活動事業  |
| 事業主体<br>(連絡先) | 東御ひだまり家族村<br>(事務局 tel:090-9665-1762、FAX:0268-64-4936、E-mail:kazoku@gmail.com) |
| 事業区分          | (3) 教育、文化の振興に関する事業、(1) 地域協働の推進に関する事業  |
| 事業タイプ         | ソフト事業   |
| 総事業費          | 2,815,900 円 (うち支援金:2,188,000 円)   |

#### 事業内容

##### 1 朗読劇「家族草子」の公演

家族の大切さを地域ぐるみで考え、さらに家族間交流と地域のつながりの醸成を図るために、一流の朗読劇である「家族草子」の公演を行った。

平成30年7月8日(日) 14:00~16:00、17:00~19:00

東御市立北御牧中学校音楽ホール

午後の部 232人、夕方の部 267人 計 499人

小学校高学年以上で、市全域、市外の方も観劇

##### 2 朗読劇「家族草子」ワークショップの開催

「家族草子」を題材としたワークショップを開催し、今後の家族のあり方や交流、地域づくりを考える機会、並びに伝えるスキルを身につける機会とした。

平成30年9月9日(日) 10:00~12:00、13:30~15:30

東御市田中コミュニティーセンター

午前の部 22人 午後の部 25人

##### 3 朗読劇「家族草子」地元版の実施

「家族草子」ワークショップを受けて、朗読劇「家族草子」地元版を作り上げるための定期的な練習会を開催し、東御市中央公民館を会場に地元有志によるミニ公演を行い、地域に根差して、今後の家族のあり方や交流、地域づくりを考える機会とした。

平成31年2月17日(日) 16:00~17:00

東御市中央公民館講義室にて100人が観劇



【家族草子ワークショップでの集合写真】

#### 【目標・ねらい】

「家族草子」公演と自主活動により、

- ① 都会の文化にふれる機会を作る
- ② 家族づくり・地域づくりを共に考えるきっかけとする

以上2点のねらいから、家族間交流と地域のつながりの醸成に取り組むことを通して、子ども・若者の健全育成、地域の助け合い・ネットワーク

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・朗読劇「家族草子」観劇者数…本公演 499人、地元版 100人で計 599人となり、前年度の本公演観劇者数 518人に対して 116% (2割増の目標には若干達せず)
- ・朗読劇「家族草子」地元版の実施による波及効果で総観劇者数 1,117人

#### ※自己評価【 B 】

##### 【理由】

「家族草子」観劇者数、ワークショップ参加者数等はいずれも目標数値にわずかに届かなかったが、ワークと地元版の自主公演を開催することによって、今後の住民主体の活動につながる手応えを得たので。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成29年度に引き続いて実施した「家族草子」観劇やワークショップは大変好評であり、平成31年度以降も継続を希望する声がたくさん寄せられた。昨年度の活動をきっかけとして、地域密着版「家族草子」として、地元メンバーが中心となって取り組みを草の根的に広げていくアイデアが形になり、今後の住民主体の活動につながる手応えが得られた。今後も、前年度・今年度で得られた成果・課題に基づいて事業を継続・発展させていくとともに、地域全体に家族間・地域内交流を広げていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 田沢地域の魅力発掘・発信。外来者呼び込み実践事業                         |
| 事業主体<br>(連絡先) | 田沢おらほ村活性化委員会 村長 荻原勝夫<br>(0268-63-5147)           |
| 事業区分          | (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業<br>(6) ア 特色ある観光地づくり |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 551,085 円 (うち支援金: 440,000 円)                     |

### 事業内容

#### 1 「おいで祭り」参加

田沢地域の魅力を発信するため、東京都大田区にある糀谷商店街において開催される「おいで祭り」に参加し、地域の特産物の販売と地域の魅力をPRしてきました。

- (1) 開催日 10月7日(日)
- (2) 開催場所 東京都大田区糀谷商店街
- (3) 内容 地域の特産品の試食、販売とパンフレット等による地域PR及び情報の発信  
(ワイン、農産物、観光名所等)
- (4) 参加者数 14名(田沢地域からの参加者)



【「おいで祭り」参加】

#### 2 大田区の商店街との交流事業

梅屋敷商店街(大田区)の方をお招きし、農業体験を年3回実施しました。

今年度は、延べ22名の参加でしたが、平成31年度はバス1台で参加していただく予定となっています。

- (1) 野菜(ブロッコリー、オカヒジキ)収穫  
ア 実施日 平成30年6月10日(日)  
イ 参加人数 7名
- (2) 田植え  
ア 実施日 平成30年6月10日(日)  
イ 参加人数 7名
- (3) 稲刈り  
ア 実施日 平成30年9月23日(日)  
イ 参加人数 8名



【空き家活用ワークショップ】

#### 3 空き家活用ワークショップの開催

第1部では、田沢地域内にあるもともと空き家だった場所を活用した施設「関酒店」と民泊施設「清水さんの家」の現在の活用状況を参加者で見学しました。また、合わせて、地域のワイナリー観光に重要な役割を果たすアルカンヴィーニュー(日本ワイン農業研究所)を見学し、それらを拠点とした今後の地域観光の可能性について、識者を交えて議論しました。

第2部では、田沢公民館においてシンポジウムを開催し、お招きした講師の方のお話や参加者による貴重な意見交換等を行いました。

- (1) 開催日 10月27日(土)
- (2) 開催場所 関酒店、民泊施設「清水さんの家」  
アルカンヴィーニュー田沢公民館
- (3) 内容 (別紙参照)
  - ア 「関酒店」「清水さんの家」「アルカンヴィーニュー」の見学及び議論
  - イ 「村の空き家を考える」シンポジウムの開催
    - (ア) 田沢おらほ村発表  
9月7・8日 銀座NAGANOでの発表事例「田沢おらほ村の挑戦！」
    - (イ) 講演会
      - ① 『ワインと鉄道と地域について』  
しなの鉄道(株) 代表取締役社長 玉木淳氏
      - ② 『地域観光の可能性』  
長野県観光部 部長 熊谷晃氏
    - (ウ) 参加者による意見交換(質疑応答)
- (4) 参加者数 見学会：54名 シンポジウム：62名



【遊歩道の整備】

【目標・ねらい】

- ① 地域の魅力を発掘・発信と地域に呼び込むための活動の活発化
- ② 観光客や移住者の増加
- ③ 地域に点在する空き家の活用検討

4 遊歩道の整備

地域内にある里山(児玉山)の遊歩道を年間通して草刈り作業等を実施しました。

また、里山(児玉山)の遊歩道を訪れた方々が散策しやすくなるように倒木処理の際に伐採した木材を有効活用しチップにして遊歩道上に敷きました。

その他、雨などによる遊歩道の崩れや、転倒などの危険防止のため排水のための水路を整備と訪れた方への案内看板を作成し設置しました。

○作業内容

| 作業内容        | 作業回数 | 参加延べ人数 |
|-------------|------|--------|
| 草刈り         | 3回   | 34名    |
| 植樹作業(桜、つつじ) | 1回   | 12名    |
| 倒木処理        | 1回   | 13名    |
| ウッドチップ作業    |      |        |
| 水路整備        | 1回   | 4名     |
| 看板設置        | 4回   | 18名    |

※自己評価 【B】

【理由】

「おいで祭り」は今回で3回目の参加となり大田区において認知度が上がり、毎年特産物を買求め来ていただける方が増え、田沢地域の魅力の発信につながった。また、空き家活用ワークショップは地元だけでなく、各地区からの参加もあり、今後の空き家の活用につなげることができた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 「おいで祭り」参加(田沢地域から14名参加)  
多くの方が集まる中で田沢地域のPR及び情報発信ができた。
- 2 大田区との交流において、大田区から延べ22名の方に来ていただき農業体験をしていただき、田沢の環境と農産物のPRにつなげられた。
- 3 空き家活用ワークショップ(参加者 見学会：54名 シンポジウム：62名)  
田沢地域以外の方も多く集まり、空き家対策や観これからの活用方法等有意義な意見交換ができた。
- 4 遊歩道整備  
里山(児玉山)の遊歩道等の整備をし、地元住民や観光で訪れた方々が散策しやすい環境を整えることができた。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後は、大田区から農業体験等で人を呼び込む事業に加え、「関酒店」「清水さんの家」と地域の観光資源であるワイン等を活かした観光ができるようPR等を行い、他地域から人を呼び込む事業を展開していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある